

2026年3月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位:千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	29,552,789	29,930,411	98.7%
国内旅行	6,412,433	6,039,833	106.2%
訪日旅行	2,223,220	2,046,128	108.7%
合計	38,188,444	38,016,373	100.5%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	101.2%
オセアニア・南太平洋	105.0%
ハワイ・ミクロネシア	100.0%
欧州・中近東・アフリカ	93.1%
北米・中南米	106.6%

商品別	前年同月比
手配旅行	99.9%
企画旅行	99.4%

チャネル別	前年同月比
店舗	101.8%
オンライン	100.7%
法人	92.7%

■ 海外旅行

3月7日・8日の2日間、第6回「HIS 海外旅行大感謝祭」を開催しました。多くのお客様に五感を刺激する多彩な体験イベントを通じて海外旅行の魅力を訴求し、夏休み等の繁忙期に向けたさらなる需要喚起を図りました。

取扱高においては、韓国が前年発生した欠航等の影響から回復し、前年同月比117.4%と大幅に伸長しました。卒業旅行等の学生需要に加え、釜山・済州などの地方路線も堅調に推移したことで、アジア方面全体の需要を底上げしました（同101.2%）。一方、中東情勢の緊迫化に伴うツアー催行中止に加え、卒業旅行としても手頃な価格帯で人気の高い中東経由の欧州便を中心に、「情勢を懸念した慎重な買い控え」や「国内旅行・他方面への行き先変更」といった動きが顕著となりました。これらの影響を受け、欧州・中近東・アフリカエリアの取扱高は前年を下回る結果となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比98.7%の295億5,278万円となりました。

■ 国内旅行

「夏先ドリキャンペーン」を実施し、早期予約クーポンの発行を通じて最盛期に向けた需要の早期獲得を強化しました。また、北海道の「彩りHokkaidoing号」や宮古島の「宮古島トワイライトシャトル」など、オリジナル観光バスの運行を発表。レンタカーで周遊したいが旅先での運転は不安、という声を解消するとともに、地域特性を活かした高付加価値な移動体験として、快適な旅行環境の整備に努めます。

取扱高においては、沖縄（前年同月比111.9%）や九州（同110.1%）が春休みの学生需要を確実に捉え、全体を牽引しました。商品別ではバスツアーが同112.3%と大幅に伸長。卒業旅行やシーズン終盤のウィンタースポーツを目的とした「3月ならでは」の企画が、グループ旅行層を中心に人気を博しました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比106.2%の64億1,243万円となりました。

■ 訪日旅行

訪日旅行営業本部では、公的機関のアジア圏招請事業受託や、大相撲観戦ツアー、北海道のガイド付ツアー等の付加価値商品の拡充に注力しました。これら施策と桜需要が相まって、取扱高は前年同月比二桁増を記録し、単月売上高で過去最高を更新。主力の北米からの団体を筆頭に、欧米圏からの受客が全体を牽引しました。ジャパンホリデートラベルでは、台湾や東南アジアへの戦略的シフトが結実し、売上高は前年を上回る推移となりました。特に日帰りバスツアーが好調で、大阪の桜関連商品が前年の3倍を超える集客を記録するなど、季節需要を的確に取り込みました。団体旅行においても欧州からの受客が伸長し好調に推移しました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比108.7%の22億2,322万円となりました。

2026年3月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比100.5%の381億8,844万円となりました。

2026年3月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	11,680,357	12,052,617	96.9%
アウトバウンド	14,006,682	14,168,742	98.9%
合計	25,687,040	26,221,360	98.0%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

ヨーロッパ方面の受客取扱高は、前年同月比 91.9%に留まりました。中東情勢の緊迫化に伴う情勢不安を背景とした予約キャンセルの動きとともに、空域制限による中東経由便を利用したツアーの催行中止が、取扱高の減少に直結しました。

一方、比較的影響が軽微であった東アジア、北米、ビーチ方面は、日本の春休みの需要を確実に捉え、前年同月を上回る結果となりました。韓国では、日本の若年層を中心に、ソウル・釜山のホテル・オプションツアーといった旅行商材が好調に推移したほか、語学体験とショッピングを組み合わせた「プチ留学プラン」などの体験型商品が支持を集め、同 109.5%となりました。米国では、オーランドへの直行チャーター便を利用したツアーやスポーツ観戦需要の増加により同 111.3%、カナダでは、スイスやイギリスからのウィスラーにおけるスノーシーズンの駆け込み需要を獲得し、同 122.5%となりました。グアムでは、先月に続き成田発のデイリーチャーター便を利用したパッケージツアーが需要を確実に捉え、同 132.9%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 96.9%の 116 億 8,035 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

送客取扱高を大きく牽引するカナダでは、前年同月比 104.3%にて着地しました。現地の春休みシーズンの到来により、カリブ海やメキシコといった近距離で温暖リゾートエリアで休暇を過ごす需要が増加したことに加え、長期休暇を利用した欧州方面へのクルーズ旅行が安定した人気を維持しました。

タイでは、東アジア地域への MICE 案件の受注や現地企業の社員旅行の手配が取扱高を押し上げ、同 161.7%と大幅な伸長をみせました。ハワイでは、日本行き「新潟・酒イベント」や「中部地方の桜」、韓国行き「世界遺産・食文化」を巡るツアーなど、各地の春の魅力堪能する添乗員同行ツアーが好調に推移し、同 137.3%となりました。米国においても、日本行きの強い需要を背景に、スポーツ観戦ツアーや日本国内の移動手配の需要を確実に取り込み、同 131.7%となりました。

一方、かつて送客取扱高の約 1 割を担っていたトルコのアウトバウンド事業からの撤退により、全体が前年割れとなりました。この傾向は 2026 年 8 月まで継続する見込みです。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 98.9%の 140 億 668 万円となりました。

2026 年 3 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 98.0%の 256 億 8,704 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

IR室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177